

市議会12月定例会行政報告

職訓短大設置へ前進

市議会十二月定例会が招集された十二月七日、
島山市長が行政報告を行いました。その中から主
なものをお伝えします。
なお、今定例会で審議された議案などについては、
来年の一月十六日号でお知らせします。

秋田技能開発センターの 職訓短大への昇格について

雇用促進事業団立秋田技能開
発センターの職業訓練短期大学 校への昇格について、昭和六十
一年十二月以来、県とともに実
現へ向けての取り組みを
進めてきました。



このたび、労働省から大
蔵省へ提出された平成二
年度予算概算要求の中に、
「職訓短大新規設置のた
めの調査費」として秋田
県(大館市)と島根県の
二カ所分が組み込まれま
した。
これは、あくまで労働
省原案であり、今後大蔵
省の査定、そして大蔵省
原案から政府原案の決定
までと、乗り越えなけれ
ばならないハードルはあ
りますが、過去の経緯か
ら見ると調査費が計上さ

れたことは、実現に向けての大
きな前進と考えています。
これはひとえに、市議会をは
じめ市民各位、関係各界の熱意
と努力によるものであり、深く
感謝いたします。
今後は、労働省原案が政府原
案として決定されるよう、なお
一層の努力を重ねていきたいと
考えています。

企業誘致の 状況

去る十一月二十七日に誘致を
発表した「株式会社ティ・アイ
・エス」は、本社が長野県にある
「株式会社流通技術研究所」の
現地法人です。

市の二十番目の誘致企業であ
るこの会社は、ソフトウェアの
開発やデータ入力受託処理等を
主な仕事としています。資本金
は五千万円。十月二日から朝日
生命労働金庫大館ビルにおいて、
七十人の地元採用者で仮操業を
始めました。平成三年四月から
の本操業を目指し、来年八月に
花岡工業団地で工場建設に着手

する予定です。本操業時の従業
員数は百六十九人(男子三十七
人、女子百三十二人)、生産額六
億五千万円を予定しています。
なお、このほかの企業の誘致
については、現在複数の会社と
の間で鋭意折衝中です。

稲作について

今年の県北地区における作況
指数は、九十八の「やや不良」、
十アール当たりの収量は五百六
十グラムと、昨年を引き続い
ての不作となりました。

稲の生育は、春先の周期的低
温で分けつが抑制されたものの、
夏場に入って一転して高温、多
照となったため、二次分けつが
発生。茎数は確保されましたが、
一穂当たりの粒数が少なかった
ため、全粒数は平年に比べてや
や不足がみられました。初期登熟は
順調に推移しましたが、中終期
以降は長雨、日照不足などで緩
慢となり、また穂首もち病や
倒伏が多く、予想以上の減収で
した。

一方、減水分裂期から出穂期
にかけて異常な干ばつに見舞われ、
その被害面積は八百七十九ヘク
タールに及び、減収量は八百十
六トン、推定被害額二億二千七
百万円となっています。
米の集荷も例年に比べて進ん

市長メモ



No.23

県北空港

県北空港早期実現総決起集会
が十一月二十六日、県北一円か
ら二千五百人が参加し鷹巣町で
開かれました。集会では、国の
第六次空港整備五カ年計画への
組み入れに向け、官民一体とな
って取り組むことを決議。本当
に、実現へ向けた地域住民の熱
気が感じられる集会でした。

空港建設候補地は鷹巣町です
から、大館市はもちろん、空港
圏域」となります。市の発展を
見据えた総合開発計画を進めて
いくためには、県北空港はな
くしてはなりません。市民生活にお
いてもそうだと思います。

空港実現のためには何よりも、
県北一円の住民の熱意が必要で
す。そこで市としては、「県北空
港建設期成大館地域推進会議」(仮
称)を発足させ、なお一層の盛り上
がりを図りたいと思っています。

新年も近づきました。来年は、
滑走路から飛び立つ飛行機のよ
うに、市民一人ひとりが大きく
飛躍する年であってほしいもの
です。

本年も大変お世話になりました。
どうぞ良いお正月を。

島田市長